



・発行・
京都障害者
スポーツ
振興会

題字 芝田 徳造

全国車いす駅伝競走大会を

二十年走り続けた選手の思い

大分選手団長兼大分Bチーム選手

吉松 時義

国立京都国際会館前をスタートし仲間や観衆の待つ西京極陸上競技場のゴールまでの5区間21.3kmを5人の選手が体と心でつなぐ全国車いす駅伝競走大会は、今年(平成21年)2月、第20回の記念大会として開催される。私は、心・技・体そして職場、生活を含む諸環境等にも恵まれ20年連続でこの大会に出場し、走りきることが出来る幸いを心に深く感じています。

1988年(昭和63年)京都で開催された第24回全国身体障害者スポーツ大会「愛とふれあいの京都大会」で、オリーブ競技として車いす駅伝競走が実施され、京都チームが見事優勝した。この大会を記念して2年後の1990年(平成2年)全国車いす駅伝競走大会はスタート

した。

第1回大会から、高円宮殿下同妃殿下にご臨席を賜り、親しく選手にお声かけを戴いたことは、大変光栄な事であり励ましとなつて大会に参加した喜びをかみしめています。2001年(平成13年)2月には京都太陽の家ならびにオムロン京都太陽にお成りいただき生産現場、施設をご案内し概要をご説明を申し上げました思い出は大きな輝きの一瞬でした。

駅伝競走大会で第1回から第17回まで私が所属した京都チームは、大会に臨むに当たつて「地元京都での大会開催であり常に3位以内で表彰台に立つこと」を合言葉にし、目標を設定して個人練習は勿論の事、合宿、合同練習等年間を通してトレーニングを積み常に大会に備え

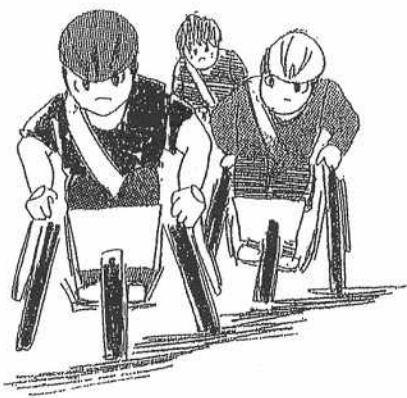
てきた。その最大の成果は1995年の第6回大会で悲願の初優勝を飾つた事である。この大会で自信をつけた京都チームはその後もメソッドは変わりつつも毎大会上位入賞を続けてきている。また、障害者スポーツの最高峰であるパラリンピックにチームのメンバーが参加できるまでに成長した。京都チームの活躍と強さの陰には自転車での練習サポートや無償のトレーニングスタッフの支援が多く得られている事であり、この恵まれた環境に感謝を忘れてはならないと思っています。

3年前の3月に故郷の大分に戻つた。大分はパラリンピックでメダルを獲つた実績をもつ選手を擁し、第18回全国車いす駅伝競走大会まで8連覇した強豪である。大分には大分国際車いすマラソン大会に出場しているベテランを含む多くのアスリートがいる。関係者の賛同を得て大分から2チームを編成し参加する事し、大分Bとして今年3回目の出場をする。初出場19位、昨年14位となり、今年は10位以内を目指している。おじさんになつても「目標を持ち、不屈の精神で、可能性がある限り挑戦しつづけたい」と、練習場所の地名をとって「チーム田ノ浦」を最近発足させた。スタートしたばかりであるが、身

体機能及び車いすマラソンに對し卓越した知識と技能と指導力を持つ指導者を得て、長い競技人生を走り続けて来たベテランが体のフォロワーをきつちりし、更に競技レベルを高められることを実証しようとして、若手も含めて個々の年間計画を作りトレーニングに取り組んでいきます。

障害者の社会参加、障害者スポーツの振興、社会の障害者に対する理解と認識を深めるといふ大会の目的は、20年の時の流れの中で、全国車いす駅伝競走大会は着実にその役割を果たしてきていますと感じています。

今年も魅力ある大会となるよう選手ひとりひとりは精一杯走ります。今後ともこの大会が充実発展して永続することを願っています。



行事予定

2月	10(火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園
	11(祝・水)	障害者スキー雪遊びのつどい	滋賀県マキノスキー場
	15(日)	209回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール
	21(土)	第20回全国車いす駅伝競走大会開会式等	グランドプリンスホテル京都
	22(日)		第20回全国車いす駅伝競走大会競技・閉会式
城陽障害者スポーツのつどい			サン・アビリティーズ城陽
3月	1(日)	第26回視覚障害者京都マラソン大会	京都市西京極陸上競技場周辺

京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2009年1月25日に一部更新)

来月の
つどいは
3 / 8
第2日曜日

スポ振ルネサンス (11) 心でつなぐ活動を!

京都障害者スポーツ振興会
副会長 水谷 裕

今月22日には、毎年恒例となつた「全国車いす駅伝競走大会」が行われます。

この車いす駅伝も今回で20回目を迎えますが、光陰矢の如しと言われるように、あっという間の20年でした。

この大会は、昭和63年に開催された「第24回全国身体障害者スポーツ大会」で、公開競技のひとつとして全国に向けて発信されて以来、続けてきたビッグイベントなのですが、これには、前置きがあります。全国的に発信する以前の昭和57年、当時、女性ながら綾部市を軸に府内北部で障害のある人々のスポーツ活動をけん引していた故市林女史が中心になつて始めた「丹の国あやべ車いす駅伝競走大会」が2回つづき、これを基となして、1年おいて発展させる形で、昭和60年に名称を変更し、丹波自然運動公園へ場所を移して現在恒例となつた「全京都車いす駅伝競走大会」へ発展し、今日の「全国車いす駅伝競走大会」に繋がって来ているのです。

当初から私たちは勝手に、

「全国対抗高校駅伝競走大会」と「全国対抗女子駅伝競走大会」と並び「京都の三大駅伝」のひとつに位置づけられて意気込み高く取り組んで来たのですが、交通渋滞から生じる市民感情を懸念した府警は継続開催に難色を示して首を縦に振ってくれず、初回から開催回数を標記することもできないまま、年度ごとの標記で開催をするしかありませんでした。

開催回数が標記できるようになつたのは、平成9年2月(平成5年度)開催の第5回大会からでした。

参加チーム数は、7区間で行った第1回大会には23チーム、5区間に減らした第2回大会では32チーム、再度増やし6区間にした第3大会は34チームと、順調に増加し、平成5年(平成4年度)の第4回大会に再び5区間に戻すと、20年の駅伝史上最高の参加チーム数の40チームを記録しましたが、平成7年の第6回大会直前の1月17日発生し、死者6433人を出した阪神淡路大震災は、練習を重ね準備を整えていた常勝の神戸市や大阪など近畿圏のチームの出場を拒み、33チームに止めました。(ちなみに、この年京都Aが優勝)

全体的には、第5回大会以降、第13回大会に30チームを

2チーム切つたのを除き、33チームから38チームを上下した参加数ですが、残念ながらこの第16回大会以降、第18回大会を除き30チームを2、3チーム切っているのが現状です。

この現状に大会実行委員会も手をこまねいているわけではなく、少しでも多くのチームが参加できるようにと区間を変えてみたり、開催時期をずらしてみたり、近年ではチームの編成条件を緩和し、地域枠を拡げたりして工夫をしています。今一歩です。

これも仕方がないというのか、駅伝の難しさというのか、全都道府県が標準タイム以上の選手を5名以上揃えることは、各地元でのスポーツ環境など、種々の条件が整わなければ、実現が困難なことが大きな要因のひとつと考えます。

今の車いす駅伝を見ていて、残念なことは、北京パラリンピックの水泳男子50m平泳ぎSB3クラスで金メダルを獲得した鈴木孝幸選手のような先天性の障害のある人の姿が殆ど見られないということだ。

これについても言えることは、先天性の障害のある人々が置かれている、発達に

必要な時期の幼いころのスポーツ環境の貧弱さを物語っているのではないだろうか。

強いて言えば、先天性の障害のある人々にとつて幼いころからのスポーツ環境のみならず、家庭環境、学校環境、地域環境などにおいても課題が山積していると思います。

なかでも、幼いころからのスポーツ環境の構築は、私たち京都障害者スポーツ振興会が重点をおいて担うべき役割であり、各部会がそれぞれの立場で早急かつ真剣に取り組まなければならぬことと考えます。

ゆうあいボウリング大会

(1月18日アルプラザ亀岡で開催)

(大会結果)	あしたーるほどほどA
団体優勝	(南丹市) 512点
準優勝	あしたーるほどほどB
第3位	あけぼの学園八木寮
	(南丹市) 478点
個人優勝	松尾 潤
準優勝	(かしのきワークスE) 256点
	水野 聡
第3位	あしたーるほどほどB) 187点
	出野 一一
	(あしたーるほどほどA) 186点

おめでとうございます
第20回全国車いす駅伝競走大会
参加予定チーム紹介
(1月24日現在)

* 数字はチームナンバーを表しています

8	茨城 A	(茨城県)
11	埼玉	(埼玉県)
13	東京	(東京都)
17	長野	(長野県)
20	福井	(福井県)
21	静岡	(静岡県)
22	愛知 A	(愛知県)
23	三重	(三重県)
26	京都 A	(京都府)
27	大阪	(大阪府)
28	兵庫	(兵庫県)
33	岡山	(岡山県)
34	広島 A	(広島県)
35	山口	(山口県)
39	高知	(高知県)
42	長崎	(長崎県)
43	熊本	(熊本県)
44	大分 B	(大分県)
45	宮崎	(宮崎県)
52	仙台	(宮城県)
56	横浜	(神奈川県)
58	名古屋	(愛知県)
59	京都 B	(京都府)
62	神戸	(兵庫県)
71	茨城 B	(茨城県)
72	愛知 B	(愛知県)
73	広島 B	(広島県)
74	大分 B	(大分県)
81	中国	(大分県)
82	九州	(福岡・大分・沖縄)